

生徒指導部通信

田名部高校定時制

第2号 令和6年7月
文責 生徒指導部 菊池 諭

令和6年度 第1回 避難訓練を実施しました。今号では教頭先生の講評をお伝えします。

東 興 日 報 2024年(令和6年)5月22日 水曜日

夜間の避難 注意点確認

む つ

田名部高定時制が初訓練



高台にある第二田名部小付近を
目指し徒歩で避難する生徒たち

「歩道の段差危険」「服装備えたい」

日本海溝型巨大地震が発生した際の迅速な避難につなげるため、むつ市の田名部高校定時制課程の生徒約60人が17日夜、避難訓練を行った。夜間の実施は今回が初めて。生徒は

海拔約33にある同校から、海拔約14の高台にある第二田名部小学校付近まで片道約20分かけて実際に歩き、避難経路確認など日頃の備えの重要性を学んだ。(川越真也)

同日午後8時に日本海溝付近で最大クラスの地震が発生。直後に校舎が全て停電、2階の調理室で火災が発生したため、垂直避難ができず津波が押し寄せる前に高台に避難する」という想定で行った。

生徒はスマートフォンのライトなどで足元を照らしながら、1階の多目的室から屋外に移動。その後、同小学校付近まで往復した。洪田陽菜さん(3年)は「夜の歩道は見えない段差もあり転倒する危険があった。ライトを持っていたても安心してはいけなと感じた」、神吉咲良さん(同)は「災害時の自分の服装が必ず万全とは限らない。冬の夜ならもっと寒いし、いろんなケースを想定して備えたい」と語った。

訓練前には、巨大地震により陸奥湾から市中心部にかけて最大約5mの津波が押し寄せ、約2m浸水するなど被害想定をまとめた動画を視聴した。

教頭先生の講話 その1「備えの重要性」

「備え有れば憂なし」という言葉があります。避難するときに廊下や路面に邪魔になるものはなかったでしょうか。実際に移動していて携帯の明かりや友人への声がけ、コミュニケーションがいかに大切か身にしみて分かったと思います。災害は忘れた頃にやってくるとも言います。火事や地震などの災害が起きた時の「備え」が重要です。本日の避難訓練は、まさに「備え」の重要性を目的としていました。

火災・全館停電でスマホライト機能活躍！



足元を確認しつつ高台に向かって徒歩避難開始！



始めて夜間に高台へ徒歩による避難訓練を終えた後、教頭先生よりご講評をいただきました！



教頭先生の講話 その2

「避難の早さの大切さ」

次に重要なのは、避難の早さです。非常ベルが鳴って、避難を行う場所までどれぐらいの時間がかかったのか振り返って見てください。避難する際は（訓練でも）、1秒遅れることが命取りになると言われています。「東日本大震災」では、避難や誘導の一瞬一瞬の判断が生死を分けたとも言われています。災害というのが、いつ起こっても瞬時に的確な判断ができるためには、日頃のこころの準備や実際に自分で動いて体感する訓練が大切です。



教頭先生の講話 その3 「経験を踏まえた災害への取り組みの重要性」

東日本大震災の被害者数は、死者・行方不明者が2万2200人以上にのぼる大災害でした。避難生活を余儀なくされている方は今でも相当な数に上っています。田名部高校は海拔3.0mのところには存在していますが、今日避難した第2田名部小学校は14.0mです。東日本大震災では福島県相馬市で9.3m以上、岩手県大船渡市綾里で40.0mの津波があったとされています。今日避難した第2田名部小学校でも完璧に安全とは言え無いということも頭に止めておいてください。